

# 「気になる」子どもに関する研究

——短大生がとらえた「気になる」子どもの調査分析——

嶋 野 重 行

## 1 はじめに

幼稚園での教育実習を終えた学生の感想を聞く。そこで、話題となることは子どもたちとの楽しかったことや感動したことに加え、ハプニングや「気になる」子どもの話である。

それでは、幼稚園においての、「気になる」子どもとはいかなる子どもであろうか。

「気になる」子どもとは、子どもの発達段階や幼稚園の方針や教育内容などの在り方と教育者の教育観や子どもを取り巻く社会環境とも深くかかわる問題であると考ええる。

例えば、周囲の子どもに比べて幼く見えてしまう子ども、素晴らしい才能をもつ子ども、あるいはタレント性のある子ども、虐待を受けている子ども、親が外国人で母国語しか話せない子どもなど、個人要因に加え環境要因も「気になる」子どもをとらえる視点となっている場合がある。

つまり、「気になる」子どもは必ずしも軽度発達障害がある子どもとは限らないと考える。しかし、一般に「気になる」子どもの多くは軽度発達障害のある子どもの行動特徴と共通点が多いのも確かである。

また、この「軽度発達障害」という用語についても、現在において明確なコンセンサスを得ているわけではない。上野（2005）は「昨今流布している『軽度発達障害』という概念もきわめて便宜的、過渡的な定義である」との見解を示している。生地（2007）はこれまで教育や福祉の分野で見過ごされてきた知能の境界線上の人たちや精神面で発達上の問題を抱えている人たちに、このような言葉を使うことで団結しやすいということを指摘し、「軽度発達障害という言葉は一種の流行語」としている。山崎（2006）によれば、軽度発達障害は特別支援教育との関連で、しばしば用いられていると指摘している。このように軽度発達障害という用語は、特殊教

育から特別支援教育へ転換する中で、一般化してきた言葉でもあったと考えられる。

さて、幼稚園や保育所にあつては、軽度発達障害の疑いのある幼児の多くは「気になる」あるいは「気がかりな」、「変わっている」、「個性的」、「指導が難しい」、「問題行動のある」などの言葉を用いられて表現されている。これらの言葉については乳幼児期の発達的な観点から、何らかの障害があるとは認定できないが、保育・教育者にとって保育や教育が「難しい子ども（Difficult children）」と感じていることからきているものと思われる。

これまで、「気になる」子どもについての調査研究は、五十嵐ら（1999）が保育場面にみられる実態調査を行い、行動特徴から5タイプを見出している。金田ら（2000）は幼稚園・保育園での実態と対応について調査している。同じく、高橋ら（2003）、平澤ら（2005）も保育所での子どもの状況を分析して支援の課題を考察している。

「気になる」子どもの定義について、本郷ら（2004）は「調査時点では何らかの障害があるとは認定されていないが、保育者にとって保育が難しいと考えられている子ども」としている。石井（2006）は、「気がかりな子」について、「発達障害児や、未診断ながらその可能性がある児童」ととらえる。田中・影山ら（2004）は、軽度発達障害のある子どもと同じくとらえ、保育園での取り組みをまとめている。さらに、新井（2004）、本郷（2003, 2006）らは、特別支援教育へのスムーズに移行する対象として「気になる」子どもをとらえ、そのスクリーニングテストの試案を作成している。一方、小澤・柳澤（1999）らは、特に軽度発達障害とは限定せずに保健指導の視点から「気になる」子どもへの支援をまとめている。就学前の子どもに関しては、いろいろな視点から「気になる」子どもの状態像を明らかにし、これからの積極的な取り

組みが待たれるところである。

近年、保育所や幼稚園でも「気になる」子どもへの関心が高まっている。実際に保育や教育場面で、そのような子どもの指導に困っているという切実な問題に加え、小・中学校の「学級崩壊」「いじめ」「不登校」「引きこもり」等の問題の多くに軽度発達障害のある子どもが関与しているのではないかと指摘され、俄かにその対応が注目され始めていることにある。

そこで、ここに至るまでの近年の軽度発達障害に関する我が国の福祉と教育の社会的動向を確認しておきたい。

福祉において、平成5（1993）年の「障害者対策に関する新長期計画」は、「リハビリテーション」及び「ノーマライゼーション」の理念のもと、障害者の社会参加・参画の一層の推進を図る障害児・者への施策のその後の方向性を示すものであった。平成7（1995）年には「障害者プラン」、平成14（2002）年には「障害者基本計画」が策定され、平成24（2012）年度まで講ずべき障害者施策の基本的方向について定めた。平成16（2004）年に「障害者基本法」が改正され、障害のある児童生徒と障害のない児童生徒が交流及び共同学習できるように環境整備を積極的に進めることが規定された。同年「発達障害者支援法」が新たに議員立法により制定・公布され、発達障害児の早期発見と適切な支援体制の整備と措置が規定された。同法で発達障害とは、「LD・ADHD・高機能自閉症、広汎性発達障害、アスペルガー症候群等」と規定されている。

教育において、発達障害のある児童生徒の多くは小・中学校の通常学級に在籍しており、適切な支援を得られぬまま、進学・就労にも困難をきたしていることが教育現場では指摘されていた。文部科学省は平成14（2002）年に指導が困難な児童生徒の全国実態調査を実施し、6.3%が通常学級に在籍していることを明らかにした。これを受け平成16（2004）年に文部科学省はLD・ADHD・高機能自閉症等の軽度発達障害へのガイドラインを示し、平成19（2007）年度までにすべての小・中学校にLD・ADHD・高機能自閉症等を含む障害のある子どものための校内支援体制の構築を目指している。

また、平成17（2005）年までには小学校・中

学校・特殊教育諸学校では障害のある子どもには「個別の教育支援計画」を策定することが求められ、既に取り組みが始まっている。あわせて、特別支援教育コーディネーターと校内委員会を設置し、整備・研修の充実を図っている。

さらに平成19（2007）年度から、これまでの盲・聾・養護学校は「特別支援学校」へと名称が変更され、地域の特別支援教育のセンターとしての機能の充実を図ることになっている。このように就学後の障害のある子どもについては「特殊教育」から「特別支援教育」という名称の変更を図る中で、新しい概念と基本的な考え方を示し各関係機関の積極的な取り組みが展開されてきている。

しかし、保育所や幼稚園に在籍している就学前の子どもについては、これから多方面からの取り組みが待たれる状況にある。

以上のことから本研究では、将来の幼稚園教員あるいは保育士を目指す短期大学生のとらえた「気になる」子どもを明らかにすることにある。学生の幼稚園教育実習は、それまでに観察実習を経ているものの、子どもと教育という立場で直接かかわる初めての機会である。新鮮な視点で子どもを観察していることが考えられ、幼稚園での「気になる」子どもの様子や行動特徴を素直にとらえていると思われる。

そこで本研究の目的の一つは、将来、保育士や幼稚園教諭を目指している学生が幼稚園の教育実習で捉えた、「気になる」子どもの有無について明らかにする。二つは、「気になる」子どもの様子や行動特徴についてその傾向を明らかにし、大学教育の幼稚園教諭及び保育士養成段階で「気になる」子どもに対する理解と支援の在り方を理解する資料を提供することにある。

## 2 方 法

### (1) 質問紙調査

最初に「障害のある子ども」として認定されて幼稚園に在籍している幼児を除くことを明記した上で、「気になる」子どもの有無とその様子を自由記述方式するように求める。

(2) 自由記述によって得られた内容にキーワードを付け、類似の内容に分類、整理する。

(3) 整理された項目を基に、「気になる」子ど

もと軽度発達障害との関連についてDSM-Ⅳの診断基準等を手掛かりに考察する。

### 3 材 料

#### (1) 調査対象

M大学短期大学生186名に対し実施した。実習した幼稚園の数は104園である。学生の実習期日は、2006年5月29日～6月16日である。

#### (2) 調査期日

2006年6月22日～7月12日

#### (3) 質問内容について

質問1の内容は「障害のある子どもとは、はっきりといえないけれど、あなたが『気になる』子どもはいましたか？」に対し「1 いた、2 いなかった、3 わからない」の選択肢とし、当てはまる番号に丸をつけ回答するようにした。無回答は4として集計した。

質問2の内容は、質問1に続けて「その子どもは、どのような子どもでしたか？」とし、200字程度の自由記述ができるようにした。

### 4 質問紙調査の結果

#### (1) 質問1について

短期大学生152名が回答した（回収率82%）。障害のある子どもとは、はっきりといえないが、実習中に「気になる」子どもがいたと認識した学生は108名で全体の71%であった。いなかったと答えた学生は33名で全体の22%であった。わからないが6名で4%、無回答が5名で3%であった（表1、図1）。

表1 気になる子どもの有無

|         | 人数  | (%)  |
|---------|-----|------|
| 1 いた    | 108 | (71) |
| 2 いなかった | 33  | (22) |
| 3 わからない | 6   | (4)  |
| 4 無回答   | 5   | (3)  |

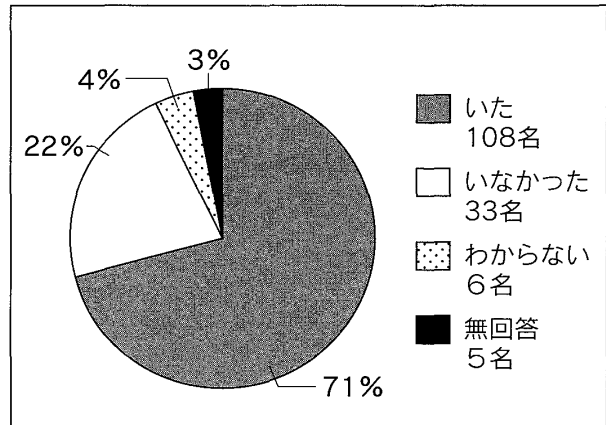


図1 質問1の結果

#### (2) 質問2について

自由記述調査の集計、整理に当たっては、文章の中から、子どもの「気になる」行動特性を表していると思われる1～3程度の単語をピックアップし、それにキーワードを付け分類、整理した。関連していると考えられる内容を大枠でくくり、それを「気になる」領域とした。

その結果、「言語」「行動」「集団活動」「身体」「性格」「生活」「対人関係」の7領域とその他を見出すことができた。7領域と具体的な構成項目については、表2のとおりである。

各領域は、相互に関連していると思われ、厳密に区分できるものではなかった。しかし、できる限り分かりやすく集計、整理するために、主要内容を第一条件としてまとめた。また、一人が複数の「気になる」事柄を記述していることもあったため抽出数は延べ数である。

### 5 考 察

#### (1) 質問1について

「気になる」子どもは「いた」と71%の学生が答えている。一方、「いない」が22%、「分からない」4%、「無回答」3%であった。学生にとっては、短い期間の教育実習ということで、担当クラスの子どもの理解だけで精一杯の状況であることを考えると、他のクラスにもいろいろな問題を抱えている子どもがいる可能性はある。104園で実習した内、108名の学生の約7割が「気になる」子どもがいたと回答していたことから、多くの幼稚園には「気になる」子どもがいると推測された。

表2 気になることの集計と整理

| No. | 内 容                     | キーワード    | 数  | No. | 内 容                    | キーワード       | 数  |
|-----|-------------------------|----------|----|-----|------------------------|-------------|----|
| 11  | 発音がうまくできない              | 言語・発音    | 11 | 88  | 靴の裏や窓の棧、ほこりが気に入っている    | 行動・固執       | 1  |
| 34  | 言葉をはっきりといえない            | 言語・表出    | 10 | 103 | ゲームでは1番にならないと泣く        | 行動・固執       | 1  |
| 3   | 言葉を読まない、あまりしゃべらない       | 言語・表出    | 9  | 98  | いつものパターンを乱されるのを嫌がる     | 行動・固執       | 1  |
| 2   | 先生や友達の話聞くことができない        | 言語・受容・注意 | 6  |     |                        | 行動の領域       | 77 |
| 13  | 話の意味が理解できない             | 言語・理解    | 6  | 46  | みんなに置いていかれても気にしない      | 集団・意識       | 3  |
| 49  | どもりがある                  | 言語・吃音    | 5  | 100 | 周りのことばかり気にしすぎる         | 集団・意識<br>過敏 | 1  |
| 17  | 一人でしゃべっている、おしゃべり        | 言語・表出・多弁 | 4  | 1   | 皆と同じ集団活動ができない          | 集団・活動       | 21 |
| 44  | 同じ質問を繰り返す               | 言語・理解    | 3  | 39  | 一人遊びが多く、皆の遊びに参加できない    | 集団・活動       | 4  |
| 43  | 言葉が時と場所に合っていない、話に一貫性が無い | 言語・状況理解  | 2  | 81  | ルールが分からない              | 集団・社会・理解    | 1  |
| 62  | 乱暴、汚い言葉を使う              | 言語・攻撃性   | 2  | 48  | ごっこ遊びができない             | 集団・社会・想像    | 1  |
| 76  | 赤ちゃん言葉を使う               | 言語・表出    | 2  | 82  | 絵本読みの時、自分の場所から離れ前にくる   | 集団・社会・理解    | 1  |
| 4   | オウム返しをする                | 言語・理解    | 2  | 33  | 皆と一緒にいるのを嫌がる           | 集団・逃避       | 1  |
| 93  | 急に話をし出す                 | 言語・衝動性   | 1  |     |                        | 集団活動の領域     | 33 |
| 110 | 言語障害の疑い                 | 言語・障害    | 1  | 67  | よだれをいつも垂らしている          | 身体          | 1  |
| 94  | 家ではしゃべるが、園で一言もしゃべらない    | 言語・緘黙    | 1  | 74  | 体が弱く園を休みがち             | 身体          | 1  |
| 32  | 言葉の語彙が少ない               | 言語・表出    | 1  | 92  | はさみを使うときに手が震える         | 身体          | 1  |
| 72  | 外国人で話せる言葉が少ない           | 言語・表出    | 1  | 27  | 眼鏡をかけている               | 身体・視覚       | 1  |
| 89  | 言葉の最後を濁してしまう            | 言語・表出    | 1  | 61  | 運動能力が低く、走る、ジャンプが難しい    | 身体・能力       | 3  |
| 18  | 年長だが、ひらがなが読めない          | 言語・読字    | 1  | 57  | 手の力が弱い                 | 身体・能力       | 1  |
| 96  | 言われた事が、なかなか理解できない       | 言語・指示・理解 | 1  | 19  | 大きな音が苦手                | 身体・聴覚       | 1  |
| 111 | 先生の指示がないと何もできない         | 言語・指示・理解 | 1  | 25  | 担任の名前を忘れる              | 身体・記憶       | 1  |
|     |                         | 言語の領域    | 71 | 36  | 心身の発達の遅れ、身長が低い         | 身体・発達       | 7  |
| 85  | 砂を口に入れる癖がある             | 行動・異食    | 1  | 28  | 年齢に比べて幼い               | 身体・発達       | 4  |
| 101 | 一人で騒いでいる                | 行動・感情    | 1  |     |                        | 身体の領域       | 21 |
| 10  | 言葉より手足が出て人を叩く、乱暴な振舞い    | 行動・攻撃性   | 8  | 78  | 言葉で表せず、笑ってごまかす         | 性格          | 1  |
| 7   | 物を叩く、壊す、乱暴に扱う           | 行動・攻撃性   | 2  | 21  | 自分の物を見せない、隠す           | 性格          | 1  |
| 29  | 人に噛み付く                  | 行動・攻撃性   | 1  | 37  | 物事に対して消極的              | 性格          | 1  |
| 47  | 自分中心で、喧嘩やトラブルを起す        | 行動・攻撃性   | 1  | 59  | 狭い所に隠れる                | 性格          | 1  |
| 51  | 衝動的に行動する                | 行動・衝動性   | 1  | 60  | トイレを安定する場としている         | 性格          | 1  |
| 58  | 納得がいかないと豹変してキレる         | 行動・衝動性   | 1  | 79  | 目立ちたがり屋だが、前に出ると黙り込む    | 性格          | 1  |
| 6   | 落ち着きがない、多動              | 行動・多動    | 24 | 80  | 人に譲らずに頑固               | 性格          | 1  |
| 31  | 椅子に座っていられない             | 行動・多動    | 3  | 87  | 認知が弱く、ボーとしている          | 性格          | 1  |
| 53  | 円を描くようにずっと走っている         | 行動・多動    | 3  | 97  | 同年齢の子と遊ばずに、ごろんと横になっている | 性格          | 1  |
| 40  | 行動が遅い                   | 行動・遅滞    | 1  | 42  | 無表情な子ども                | 性格・感情・表出    | 1  |
| 25  | よく廊下、外に出たがる             | 行動・逃避    | 3  | 52  | 独特の世界をもっている            | 性格・一人世界     | 1  |
| 45  | 思い通りにならないと泣く            | 行動・パニック  | 7  | 64  | 誰もいないところで、一人で笑っている     | 性格・一人世界     | 1  |
| 26  | 思い通りにならないと怒る、叫ぶ         | 行動・パニック  | 5  | 70  | 自分の世界へ入っている            | 性格・一人世界     | 1  |
| 112 | 医者を見て、泣いてパニックを起す        | 行動・パニック  | 1  | 91  | 一人でぶつぶつ言って笑っている        | 性格・一人世界     | 1  |
| 35  | 常にきょろきょろ目を動かしている        | 行動・不注意   | 1  |     |                        | 性格の領域       | 14 |
| 73  | 興味がすぐに移りかわる             | 行動・不注意   | 1  | 20  | 風呂に入らない                | 生活          | 1  |
| 99  | 集中力が無い                  | 行動・不注意   | 1  | 65  | 塗り絵で、黒や紫一色で塗りつぶす       | 生活・学習       | 2  |
| 14  | いうことを聞かない、指示に従わない       | 行動・理解    | 3  | 83  | 製作活動ができない              | 生活・学習       | 1  |
| 108 | 自分の所属・居る場所が分からない        | 行動・理解    | 2  | 109 | みんなと一緒に歌いたがらない         | 生活・学習       | 1  |
| 68  | 順番などに対するこだわりが強い         | 行動・固執    | 2  |     |                        |             |    |
| 5   | すぐに水道に行き水遊びをする          | 行動・固執    | 1  |     |                        |             |    |

表3 各領域と抽出数

| No.     | 内 容                | キーワード   | 数  |
|---------|--------------------|---------|----|
| 104     | 着替えを先生が手伝わないとしない   | 生活・着替え  | 1  |
| 75      | 所持品を片付けられない        | 生活・自己管理 | 1  |
| 22      | 準備をしない             | 生活・自己管理 | 1  |
| 41      | 自分のスモックを丸めている      | 生活・自己管理 | 1  |
| 106     | 箸をうまく使えない          | 生活・食事   | 1  |
| 107     | ハンカチで弁当を包むことができない  | 生活・食事   | 1  |
| 71      | ほとんど給食を食べない        | 生活・食事   | 1  |
| 12      | 排泄、先生と一緒にできないとしない  | 生活・排泄   | 2  |
| 55      | 排泄後にお尻が拭けない        | 生活・排泄   | 1  |
| 77      | お昼寝ができない           | 生活・リズム  | 1  |
| 生活の領域   |                    |         | 16 |
| 56      | 友達と会話ができない         | 対人・会話   | 2  |
| 9       | 友達とのコミュニケーションが苦手   | 対人・会話   | 1  |
| 8       | 人にちょっかいを出す         | 対人・関係   | 2  |
| 63      | 人にわざとぶつかる          | 対人・関係   | 2  |
| 105     | 周りの人や物に対していたずらをする  | 対人・関係   | 1  |
| 66      | 友達とのかかわりがない        | 対人・無関係  | 1  |
| 15      | 視線が合わない            | 対人・注視   | 12 |
| 50      | 呼ばれても返事をしない、反応が無い  | 対人・反応   | 3  |
| 16      | 先生から離れない、同じことをしたがる | 対人・分離   | 4  |
| 90      | 先生に抱きつく、おんぶをせがむ    | 対人・分離   | 1  |
| 69      | 心から楽しんで遊んでいない      | 対人・感情   | 1  |
| 対人関係の領域 |                    |         | 28 |
| 38      | ADHDの疑いのある子ども      | その他・障害  | 1  |
| 84      | 自閉症の疑い             | その他・障害  | 2  |
| 54      | ダウン症の疑いの子ども        | その他・障害  | 1  |
| 95      | 知的障害の疑い            | その他・障害  | 1  |
| その他     |                    |         | 5  |

| 気になる領域 | 気になる行動の抽出数 A (%) | 軽度発達障害の行動特性の占める数 B (A/B : %) |
|--------|------------------|------------------------------|
| 行 動    | 77 (29)          | 77 (100)                     |
| 集団活動   | 33 (13)          | 33 (100)                     |
| 対人関係   | 28 (10)          | 23 (82)                      |
| 言 語    | 71 (27)          | 25 (35)                      |
| 身 体    | 21 (7)           | 2 (10)                       |
| 生 活    | 16 (6)           | 6 (38)                       |
| 性 格    | 14 (5)           | 4 (29)                       |
| そ の 他  | 5 (3)            | 3 (60)                       |
| 合 計    | 265 (100)        | 173 (65)                     |

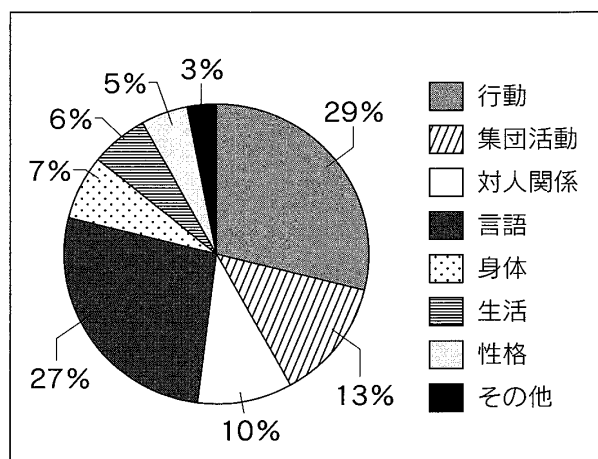


図2 気になる領域の割合

## (2) 質問2について

子どもの気になる項目について265項目が抽出された。その領域として「行動」「集団活動」「対人関係」「言語」「身体」「生活」「性格」の7領域とその他に整理できた。

それら領域の全体に占める割合は、「行動」29%、「集団活動」13%、「対人関係」10%、「言語」27%、「身体」7%、「生活」6%、「性格」5%、その他3%であった(表3、図2)。

また、抽出数の多い項目については表4のとおりである。

表4 抽出数の多い項目

|                      |           |    |
|----------------------|-----------|----|
| 落ち着きがない、多動           | (行動・多動)   | 24 |
| みんなと同じ集団活動ができない      | (集団・活動)   | 21 |
| 視線が合わない              | (対人・注視)   | 12 |
| 発音がうまくできない           | (言語・発音)   | 11 |
| 言葉をはっきりと喋れない         | (言語・表出)   | 10 |
| 言葉を話さない、あまりしゃべらない    | (言語・表出)   | 9  |
| 言葉より手足が出て人を叩く、乱暴な振舞い | (行動・攻撃性)  | 8  |
| 思い通りにならないと泣く         | (行動・パニック) | 7  |

抽出数の多い「落ち着きがない、多動」24件、「みんなと同じ集団活動ができない」21件、「視線が合わない」12件、「叩く、乱暴な振舞い」8件など、これら項目は幼稚園教育の内容が集団での活動とも深く関係している。また、「言語」の領域でも「発音がうまくできない」「言葉をはっきりといえない」「言葉話をさない、あまりしゃべらない」など比較的多かった。これは、幼稚園教育の活動全体が音声による直接的なコミュニケーションによるためと考える。つまり、行動や言語の領域にかかわる変調、障害が「気になる」ことを第三者に伝えるシグナルであることが多いためであると考えられる。

一方、「生活」「身体」「性格」では、むしろ個人差や多様性があることが常識であり、「気になる」ことに対するとらえの範囲が広く柔軟であるためと考えられる。しかし、これも集団での活動から大きく逸脱する要因となっていたり、度が過ぎたりすると「気になる」とらえとなってくるものとする。

(3) 「気になる」子どもと軽度発達障害の関連  
「気になる」子どもの多くは、軽度発達障害との関連が指摘されていることから、DSM-IVの学習障害、広汎性発達障害、注意欠陥および破壊的行動障害等の症状（図3参照）と関連している項目を選定した。これらの項目には†印を付した。

### 学習障害

#### Learning Disorders

- 315.00 読字障害
- 315.1 算数障害
- 315.2 書字表出障害
- 315.9 特定不能の学習障害

### 広汎性発達障害

#### Pervasive developmental Disorders

- 299.00 自閉性障害
- 299.80 レット症候群
- 299.10 小児期崩壊性障害
- 299.80 アスペルガー障害
- 299.80 特定不能の広汎性発達障害

### 注意欠陥および破壊的行動障害

#### Attention-Deficit and Disruptive Behavior Disorders

- 314.xx 注意欠陥/多動性障害
  - .01 混合型
  - .00 不注意優勢型
  - .01 多動性-衝動性優勢型
- 314.9 特定不能の注意欠陥/多動性障害
- 312.8 行為障害
  - 病型を特定せよ：小児期発症型、青年期発症型
- 313.81 反抗挑戦性障害
- 312.9 特定不能の破壊的行動障害

図3 DSM-IVの分類

その結果、「行動」「集団活動」では100%の項目と関連していた。「対人関係」について82%で関連していた。さらに「言語」の領域では34%、「身体」10%、「生活」38%、「性格」29%、その他60%であった。「気になる」子どもの問題として、全体の領域を合わせると65%を占めていることが明らかになった（表3、図4）。

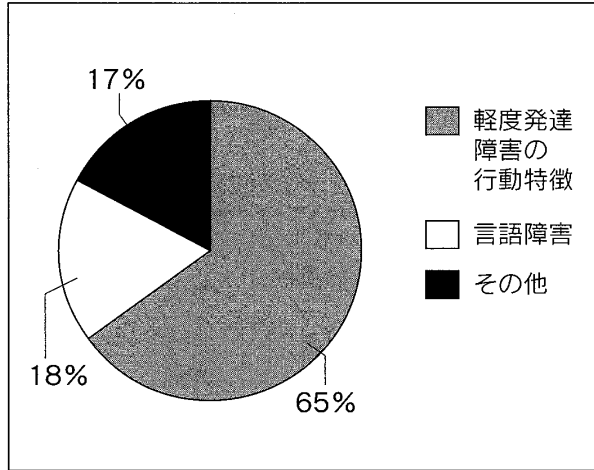


図4 主に軽度発達障害と関連がある行動特性の割合

さらに、「気になる」子どもと軽度発達障害の関連を明らかにするため、「気になる」領域・項目についてDSM - IVの診断基準を参考に考察した。

#### ① 行動の領域・項目について

行動の気になる領域で77件（29%）が見出され、全項目の中で一番多かった。

##### 1) 落ち着きのなさ、多動33件

|                   |       |    |
|-------------------|-------|----|
| 落ち着きがない、多動 ↑      | 行動・多動 | 24 |
| 椅子に座ってられない ↑      | 行動・多動 | 3  |
| 円を描くようにずっと走っている ↑ | 行動・多動 | 3  |
| よく廊下、外に出たがる ↑     | 行動・逃避 | 3  |

「落ち着きがない」「椅子に座ってられない」「円を描くようにずっと走っている」項目は、合わせて30件と多い。DSM - IVでは、注意欠陥／多動性障害（以下、AD/HD）の多動性の症状をあらわしている。また、AD/HDの場合は、他に不注意と衝動性の症状も合わせもっている。このような視点からも観察が求められる。ほとんどの場合は、病理的な症状ではなく、性格や発達過程上の正常範囲内での問題である場合が多い。「よく廊下、外に出たがる」項目は、集団での活動が嫌な場合や室内より外遊びに興味があり、自分の行動をコントロールするのが困難な場合が考えられる。

##### 2) 人や物に対する攻撃性・衝動性・パニック28件

|                          |         |   |
|--------------------------|---------|---|
| 言葉より手足がすぐ出て人を叩く、乱暴な振舞い ↑ | 行動・攻撃性  | 8 |
| 物を叩く、壊す、乱暴に扱う ↑          | 行動・攻撃性  | 2 |
| 人に嘔み付く ↑                 | 行動・攻撃性  | 1 |
| 思い通りにならないと泣く ↑           | 行動・パニック | 7 |
| 思い通りにならないと怒る、叫ぶ ↑        | 行動・パニック | 5 |
| 医者を見て、泣いてパニックを起す ↑       | 行動・パニック | 1 |
| 一人で騒いでいる ↑               | 行動・感情   | 1 |
| 衝動的に行動する ↑               | 行動・衝動性  | 1 |
| 自分中心で、喧嘩やトラブルを起す ↑       | 行動・攻撃性  | 1 |
| 納得がいかないと豹変してキレる ↑        | 行動・衝動性  | 1 |

DSM - IVでは、行為障害（CD）の症状に当てはまる行動特徴を示している。「言葉より手足がすぐ出て人を叩く、乱暴な振舞い」は、言葉で解決できることをしないで、自分の気持ちのイライラ感を人に対する攻撃的な行動で解決を図ろうとしていると考えられる。このような結果として、「自分中心で、喧嘩やトラブルを起す」ことになる。幼児期は、言葉や自己コントロールの未成熟により、喧嘩やトラブルは日常的に多く発生している。一般には、このようなトラブルをとおして、相手の立場で物事を考えることができるようになり、社会性を学習していく機会となる。言葉で解決できずに感情がコントロールできないときはパニックを起すことが多い。

##### 3) 固執6件

|                     |       |   |
|---------------------|-------|---|
| 順番などに対するこだわりが強い ↑   | 行動・固執 | 2 |
| すぐに水道に行き水遊びをする ↑    | 行動・固執 | 1 |
| 靴の裏や窓の棧、埃が気に入っている ↑ | 行動・固執 | 1 |
| ゲームでは1番にならないと泣く ↑   | 行動・固執 | 1 |
| パターンを乱されるのを嫌がる ↑    | 行動・固執 | 1 |

DSM - IVでは、広汎性発達障害（以下、PDD）の自閉性障害、アスペルガー障害の症状を示す行動特徴である。「順番などに対するこだわりが強い」「パターンを乱されるのを嫌がる」などの固執が見られる。「すぐに水道に行き水遊びをする」ことも水に対する興味関心が異常に強すぎることによる。「靴の裏や窓の棧、埃が気に入っている」ことも同様に考えら

れる。また、知的な発達障害や遅れがある場合も考えられる。知的な遅れが無い自閉性障害(高機能自閉症)やアスペルガー障害の場合には、「ゲームでは1番にならないと泣く」というように、1番に固執する傾向が見られる。

#### 4) 指示理解5件

|                    |         |   |
|--------------------|---------|---|
| いうことを聞かない、指示に従わない† | 行動・指示理解 | 3 |
| 自分の所属・居る場所が分からない†  | 行動・指示理解 | 2 |

DSM-IVでは、AD/HDの症状の一つである不注意には「しばしば指示に従えず、学業、仕事をやり遂げることができない」がある。「いうことを聞かない、指示に従わない」は指示されていることの理解がありながらも、従わないのか、理解がないのかで違ってくるため、観察を慎重にする必要がある。自分の所属が分からないことは、指示する側が適切な働きかけをしているのかが問われる。知的に遅れがある場合、空間的な認知が低く、全体行動の中で自分の行動がどうあればよいのか分からない場合がある。

#### 5) 不注意3件

|                   |        |   |
|-------------------|--------|---|
| 常にきょろきょろ目を動かしている† | 行動・不注意 | 1 |
| 興味がすぐに移りかわる†      | 行動・不注意 | 1 |
| 集中力が無い†           | 行動・不注意 | 1 |

DSM-IVでは、不注意はAD/HDの症状の一つである。「常にきょろきょろ目を動かしている」「集中力が無い」ことが、結果的に「興味がすぐに移りかわる」ことにつながるとも考える。

#### 6) 異食1件

|              |       |   |
|--------------|-------|---|
| 砂を口に入れる癖がある† | 行動・異食 | 1 |
|--------------|-------|---|

DSM-IVでは、摂食障害の異食症が疑われる。知的障害がある場合でも、ブロックやクリップ、紙、草などを食べていることがある。臨床的には自閉性障害の子どもで精神遅滞が伴う場合、いろいろな物を口に入れて、噛む感触を楽しんでいる場合もある。

#### 7) 行動緩慢1件

|       |       |   |
|-------|-------|---|
| 行動が遅い | 行動・遅滞 | 1 |
|-------|-------|---|

精神遅滞による行動の緩慢、指示の理解が遅いことが考えられる。

## ② 集団活動の領域・項目について

集団行動とかかわっては33件(13%)であった。行動や対人関係の領域とも関係の深い事柄でもある。

### 1) 皆と集団活動ができない28件

|                      |          |    |
|----------------------|----------|----|
| 皆と同じ集団活動ができない†       | 集団・活動    | 21 |
| 一人遊びが多く、皆の遊びに参加できない† | 集団・活動    | 4  |
| ルールが分からない†           | 集団・社会・理解 | 1  |
| ごっこ遊びができない†          | 集団・社会・想像 | 1  |
| 皆と一緒にいるのを嫌がる†        | 集団・逃避    | 1  |

DSM-IVでは、AD/HDの症状を示し、不注意や多動であること、ルールなどの活動内容が理解されていないこと、騒がしい環境が嫌いなことなどの、いくつかの原因があり、その結果として「皆と同じ集団での活動ができない」と考えられる。

「一人遊びが多く、皆の遊びに参加できない」のは、興味関心が一人遊びに向いていること、あるいは、集団活動ができない結果として一人遊びになっていることが考えられる。

「ごっこ遊びができない」ことは、見立て遊びができないことであり、想像(イメージ)することが難しい認知面での遅れも考えられる。

### 2) 集団帰属の意識がない3件

|                  |       |   |
|------------------|-------|---|
| 皆に置いていかれても気にしない† | 集団・意識 | 3 |
|------------------|-------|---|

集団帰属の意識が弱い場合も、結果として、皆と一緒に集団活動ができないことになる。

### 3) 集団に対する意識過敏1件

|                 |         |   |
|-----------------|---------|---|
| 周りのことばかり気にしすぎる† | 集団・意識過敏 | 1 |
|-----------------|---------|---|

「周りのことばかり気にしすぎる」のは、感覚過敏であるか、他者からの自己に対する評価が気になり、精神的に安定しないことが考えられる。また、不注意により一つのことに集中できないことも考えられる。

### 4) 集団ルールの遵守1件

|                       |        |   |
|-----------------------|--------|---|
| 絵本の読みの時、自分の場所から離れ前に行く | 集団・ルール | 1 |
|-----------------------|--------|---|

絵本に対する興味関心は旺盛であるが、周囲との関係が理解できないことが考えられる。



### ③ 対人関係の領域・項目について

対人関係は28件（10%）であった。特に、対人関係の部分は行動や集団活動とも深く関係している。

#### 1) 視線が合わない12件

|          |       |    |
|----------|-------|----|
| 視線が合わない† | 対人・注視 | 12 |
|----------|-------|----|

DSM - IVでは、自閉性障害の症状として目とめで見つめ合うことの障害がある。これは、共同注意や指差し行動ができていないことが疑われ、対人的相互反応の質的な障害が疑われる。

#### 2) コミュニケーションの問題8件

|                    |        |   |
|--------------------|--------|---|
| 友達と会話ができない†        | 対人・会話  | 2 |
| 友達とのコミュニケーションが苦手†  | 対人・会話  | 1 |
| 友達とのかかわりが無い†       | 対人・無関係 | 1 |
| 呼ばれても返事をしない、反応が無い† | 対人・反応  | 3 |
| 心から楽しんで遊んでいない†     | 対人・感情  | 1 |

DSM - IVでは、コミュニケーション障害があるが、自閉性障害またはPDDの基準に合致する場合は診断されない。多くはPDDが疑われる。意志伝達の質的な障害が症状としてある。

#### 3) 誤った関係の持ち方を学習している5件

|                   |       |   |
|-------------------|-------|---|
| 人にちょっかいを出す        | 対人・関係 | 2 |
| 人にわざとぶつかる         | 対人・関係 | 2 |
| 周りの人や物に対していたずらをする | 対人・関係 | 1 |

この項目に関しては、PDDの症状には当てはまらないものと考えられる。他人に対しての人間関係がとれている状態である。どちらかといえば人との関係を積極的に求めている姿があり、成長の過程で誤った人間関係を学習してきていることや性格の歪みが考えられる。

#### 4) 分離がうまくできていない5件

|                    |       |   |
|--------------------|-------|---|
| 先生から離れない、同じことをしたがる | 対人・分離 | 4 |
| 先生に抱きつく、おんぶをせがむ    | 対人・分離 | 1 |

この項目に関してもPDDの症状には当てはまらなれないと考えられる。症状とすれば、愛着が充足していないことが考えられ、大人に対してかかわりを持ちたがっている姿を示している。

DSM - IVでは、分離不安障害が疑われる。

### ④ 言語の領域・項目について

言語は71件（27%）が見出された。各構成項目については次のとおりである。

#### 1) 言語の発音や表出、伝達など36件

|                          |            |    |
|--------------------------|------------|----|
| 発音がうまくできない、言葉の遅れ         | 言語・発音      | 11 |
| 言葉をはっきりと言えない             | 言語・表出      | 10 |
| 言葉を読まない、あまりしゃべらない†       | 言語・表出      | 9  |
| 言葉が時と場所に合っていない、話に一貫性が無い† | 言語・状況理解・伝達 | 2  |
| 赤ちゃん言葉を使う                | 言語・表出      | 2  |
| 言葉の語彙が少ない                | 言語・表出      | 1  |
| 言葉の最後を濁してしまう             | 言語・表出・優柔   | 1  |

「発音がうまくできない」と「言葉をはっきりと言えない」ことは口蓋裂、舌の運動不全など身体機能の構造的障害か知的な面での遅れが考えられる。また、「話さない」ことは選択性緘黙のように、ある程度の意志をもって話さないのか、過緊張などにより話せなくなるのか、いろいろな要因が考えられる。「言葉が時と場所に合っていない、話に一貫性が無い」ことについては、単に言語発達の遅れがあるか、AD/HDの不注意の症状、あるいは興味が次々と移りかわるのか、脳の言語野の障害も考えられる。赤ちゃん言葉や語彙が少ないのは精神遅滞が考えられる。

#### 2) 言語の理解17件

|                   |          |   |
|-------------------|----------|---|
| 話の意味が理解できない       | 言語・理解    | 6 |
| 先生や友達の話聞くことができない† | 言語・受容・注意 | 6 |
| 同じ質問を繰り返す         | 言語・理解    | 3 |
| 言われた事が、なかなか理解できない | 言語・指示・理解 | 1 |
| 先生の指示がないと何もできない   | 言語・指示・理解 | 1 |

「話の意味が理解できない」「話を聞くことができない」「同じ質問を繰り返す」などの言語の理解面では、知的発達の遅れがあるか、難聴である場合も考えられる。また、言葉の発信側が知的レベルに合わせた関わり方をしているかの問題もある。これら密接に関連している項目は、合わせて16件となる。「先生の指示がないと何もできない」ことは、話の理解はしているが行動にきちんと移すことができない未学習の

問題や日常生活面で指示待ちになっており、自発的な行動が弱いことも考えられる。

### 3) 吃音5件

|        |       |   |
|--------|-------|---|
| どもりがある | 言語・吃音 | 5 |
|--------|-------|---|

DSM - IVでは、吃音症はコミュニケーション障害に分類される。しかし、一般に幼稚園の子ども達には観察され、発達の一過性の問題であることが多い。自分の伝えたいという意欲に対して言語発達面が伴わない場合も考えられる。また、緊張しやすい子どもや精神的に不安定な場合にも吃音症状が出やすいとも考えられる。

### 4) 多弁4件

|                   |          |   |
|-------------------|----------|---|
| 一人でしゃべっている、おしゃべり↑ | 言語・表出・多弁 | 4 |
|-------------------|----------|---|

AD/HDの主症状の一つに多動性があるがその症状に「しばしばしゃべるすぎる」があり、相手との関係の中で、一方的に話す場合がある。

### 5) 衝動性1件

|          |        |   |
|----------|--------|---|
| 急に話をし出す↑ | 言語・衝動性 | 1 |
|----------|--------|---|

AD/HDの症状の一つに衝動性がある。出し抜けにしゃべりだすことが症状としてある。相手の言いたいことを推察することができないので互いの言葉でのやり取りにならない。

### 6) オウム返し2件

|           |       |   |
|-----------|-------|---|
| オウム返しをする↑ | 言語・理解 | 2 |
|-----------|-------|---|

自閉症の臨床観察場面では、即時または遅延の反響言語（エコラリア）が症状として報告されている。また、一般には話の内容が理解できていないとき、オウム返しになりやすい。また、どのように応答してよいか分からない理解面での遅れが考えられる。

### 7) 暴言・汚言2件

|            |        |   |
|------------|--------|---|
| 乱暴、汚い言葉を使う | 言語・攻撃性 | 2 |
|------------|--------|---|

暴言や汚い言葉の使用は、社会的に正しい言語環境になく、間違った言葉の使い方をしている状態である。自分の感情を抑えきれずに攻撃的な言葉を発している場合が考えられる。家庭での親子・兄弟、テレビや幼稚園での友人関係での不適切な言語モデルが影響していることもある。

### 8) 選択性緘黙1件

|                       |       |   |
|-----------------------|-------|---|
| 家ではしゃべるが、園では一言もしゃべらない | 言語・緘黙 | 1 |
|-----------------------|-------|---|

DSM - IVでは、この状態が特定の社会的状況で1ヵ月以上持続する場合は選択性緘黙となる。言語の機能的な不全が無いにもかかわらず、例えば学校や友達とはしゃべらない症状である。幼稚園の場で心が傷つく場面があり、それ以来、話さなくなるが、家庭に帰ると母親に対しては園であった出来事をたくさんお話している例もある。なるべく心的ストレスを与えないで、自分の心を信頼感のある人に自己開示できる雰囲気を作っていくことが大切である。

### 10) 読字困難1件

|                 |       |   |
|-----------------|-------|---|
| 年長だが、ひらがなが読めない↑ | 言語・読字 | 1 |
|-----------------|-------|---|

DSM - IVでは、学習障害（LD）の文字にかかわる主症状として読字障害がある。就学前の段階では、必ずしもひらがなが読めないことは障害とはならない。知的な発達障害があり、文字の学習能力が低い場合と環境的にひらがなを学習する機会を失っている場合もある。

### 11) その他1件

|               |       |   |
|---------------|-------|---|
| 外国人で話せる言葉が少ない | 言語・表出 | 1 |
|---------------|-------|---|

## ⑤ 身体の領域・項目について

身体は21件（8%）であった。

### 1) 身長などの発達の遅れ11件

|                |       |   |
|----------------|-------|---|
| 心身の発達の遅れ、身長が低い | 身体・発達 | 7 |
| 年齢に比べて幼い       | 身体・発達 | 4 |

同じ年齢の子どもに比べて、全体的に身体や精神の発達が遅いということである。

### 2) 身体的な弱さ5件

|                     |       |   |
|---------------------|-------|---|
| 運動能力が低く、走る、ジャンプが難しい | 身体・能力 | 3 |
| 体が弱く園を休みがち          | 身体    | 1 |
| 手の力が弱い              | 身体・能力 | 1 |

「運動能力が低く、走る、ジャンプが難しい」ことは、同じ年齢の子どもに比べて全体的に身体が発達が遅いことが考えられる。「体が弱く園を休みがち」である場合は、身体が弱く、病

弱な体質であることが考えられる。

### 3) 震え、よだれ2件

|                |    |   |
|----------------|----|---|
| はさみを使うときに手が震える | 身体 | 1 |
| よだれをいつも垂らしている  | 身体 | 1 |

脳障害がある場合は、細かい作業のときに手が震えるなどの症状がある。また、よだれについては、舌の吸引、顎の運動が弱い場合や脳性まひ、てんかん薬の副作用等でよだれが多く出る場合がある。

### 4) 視力1件

|          |       |   |
|----------|-------|---|
| 眼鏡をかけている | 身体・視覚 | 1 |
|----------|-------|---|

幼少時期からの弱視は、病理学上の内膜症や遺伝的な原因、あるいは日常生活上の習慣から起こる場合が考えられる。

### 5) 聴覚1件

|          |       |   |
|----------|-------|---|
| 大きな音が苦手† | 身体・聴覚 | 1 |
|----------|-------|---|

感覚過敏な症状は、自閉性障害に見られる。特に「大きな音が苦手」で、耳ふさぎや耳の後に指を当てて、感覚をシャットアウトしようとする姿は、よく観察される。脳の情報処理系の障害も考えられる。

### 6) 記憶1件

|           |       |   |
|-----------|-------|---|
| 担任の名前を忘れる | 身体・記憶 | 1 |
|-----------|-------|---|

記憶については、脳に障害があると短期記憶に障害をもつことがある。過去のエピソード記憶は長期記憶として残りやすいが、ありふれた苗字や名前などの場合は、なかなか記憶できない場合がある。

## ⑥ 生活の領域・項目について

生活にかかわるものは16件（6%）あった。

### 1) 学習にかかわること4件

|                   |       |   |
|-------------------|-------|---|
| 塗り絵で、黒や紫一色で塗りつぶす† | 生活・学習 | 2 |
| 製作活動ができない         | 生活・学習 | 1 |
| 皆と一緒に歌いたがらない†     | 生活・学習 | 1 |

「塗り絵で、黒や紫一色で塗りつぶす」ことは、正しい学習をしていない場合、知的発達が正常であっても単色での塗りつぶしはしばしば見られることである。精神的な不安定さが、衝

動的な塗りつぶしとして見られることも考えられる。「製作活動ができない」ことは、知的な空間認知や構成力に遅れがある場合や手指の巧緻性など、運動機能の遅れも考えられる。「皆と一緒に歌いたがらない」ことは、普通の幼児でも、恥かしがり屋であったり、歌がうまく歌えないことが分かっていたりすると皆と一緒に歌おうとしないことが考えられる。

### 2) 食事3件

|                   |       |   |
|-------------------|-------|---|
| 箸をうまく使えない         | 生活・食事 | 1 |
| ハンカチで弁当を包むことができない | 生活・食事 | 1 |
| ほとんど給食を食べない†      | 生活・食事 | 1 |

知的な発達の遅れから、日常生活の正しい生活動作を学習していないことが考えられる。「ほとんど給食を食べない」という、偏食などの強いこだわりは自閉性障害の子どもに多く見られる。

### 3) 排泄3件

|                |       |   |
|----------------|-------|---|
| 排泄、先生と一緒にできない† | 生活・排泄 | 2 |
| 排泄後にお尻が拭けない    | 生活・排泄 | 1 |

排泄については、知的な発達の遅れから、日常生活の正しい生活動作を学習していないことが考えられる。特に、お尻が拭けないことについては、適切な時期でのトイレトレーニングの未学習が考えられる。

### 4) 自己管理3件

|               |         |   |
|---------------|---------|---|
| 所持品を片付けられない†  | 生活・自己管理 | 1 |
| 準備をしない†       | 生活・自己管理 | 1 |
| 自分のスモックを丸めている | 生活・自己管理 | 1 |

不注意や興味の偏り、順序立てて物事を考えないはAD/HDの症状である。他に記憶障害や基本的生活習慣の未学習の問題も考えられる。

### 5) 着替え、昼寝、風呂など3件

|               |        |   |
|---------------|--------|---|
| 風呂に入らない       | 生活     | 1 |
| 着替えを先生が手伝わない† | 生活・着替え | 1 |
| お昼寝ができない      | 生活・リズム | 1 |

風呂に入れないことは基本的生活習慣の未学習が考えられる。昼寝ができないことは睡眠障害が考えられる。自閉性障害の場合では、こだわりもある。また、これらは家庭での養育放

棄・放任なども考えられ、昼夜逆転型の生活習慣となっていることも考えられる。

## ⑦ 性格の領域・項目について

性格にかかわることは14件（5%）あった。

### 1) 自分の世界に浸っている4件

|                    |         |   |
|--------------------|---------|---|
| 独特の世界をもっている†       | 性格・一人世界 | 1 |
| 誰もいないところで、一人で笑っている | 性格・一人世界 | 1 |
| 自分の世界へ入っている†       | 性格・一人世界 | 1 |
| 一人でぶつぶつ言って笑っている†   | 性格・一人世界 | 1 |

自閉性障害のある子どもの場合は、一人の空想世界に入り込んで自己刺激行動を楽しんでいることがある。また、統合失調症の場合は、妄想や幻聴があり、一人でぶつぶつつぶやいている姿が観察される。しかし、普通の幼児でもテレビのアニメキャラクターをイメージし、空想して楽しんでいることも見られ、医師による専門的な診断が必要である。

### 2) 頑固、目立ちたがり屋、無表情など10件

|                     |          |   |
|---------------------|----------|---|
| 言葉で表せず、笑ってごまかす      | 性格       | 1 |
| 自分の物を見せない、隠す        | 性格       | 1 |
| 物事に対して消極的           | 性格       | 1 |
| 狭い所に隠れる             | 性格       | 1 |
| トイレを安定する場としている      | 性格       | 1 |
| 目立ちたがり屋だが、前に出ると黙り込む | 性格       | 1 |
| 人に譲らずに頑固            | 性格       | 1 |
| 認知が弱く、ボーとしている       | 性格       | 1 |
| 友達と遊ばずに、ごろんと横になっている | 性格       | 1 |
| 無表情な子ども†            | 性格・感情・表出 | 1 |

「笑ってごまかす」「物事に対して消極的」「目立ちたがり屋だが、前に出ると黙り込む」「人に譲らずに頑固」などは、性格的な要素が強いと思われる。

「狭い所に隠れる」「トイレを安定する場としている」子どもは、集団の煩い所が嫌いであるとか、感覚過敏であることが考えられる。「無表情」は、自閉性障害の子どもは能面のように感情が顔に表われにくい場合がある。

また、虐待を受け高いストレスを受けている幼児は、症状に落ち着き無さや衝動性が現れ、記憶の喪失があると報告されている。

## ⑧ その他の項目について

特定の障害が疑われるものとした。

### その他5件

|                |        |   |
|----------------|--------|---|
| ADHDの疑いのある子ども† | その他・障害 | 1 |
| 自閉症の疑い†        | その他・障害 | 2 |
| ダウン症の疑いの子ども    | その他・障害 | 1 |
| 知的障害の疑い        | その他・障害 | 1 |

以上、整理に当たっては教育現場での臨床経験を踏まえ、一般的に考えられる気になる行動についてDSM-IVの診断基準を参考に考察したものである。ケースによって、いろいろな見解があることはいうまでもない。

## 6 まとめと今後の課題

今回の調査により、全体の71%の学生が、幼稚園という教育の場で、「気になる」子どもがいたと認識していることが明らかになった。

さらに、「気になる」子どものとらえた項目の65%において、軽度発達障害の行動特徴と類似する内容をとらえていた。他には言語、生活、性格、身体面の「気になる」内容をとらえていた。

「気になる」子どもは、必ずしも軽度発達障害がある子どもとは言えない。A学生には気になるが、B学生には気にならないことがある。また、A先生には気になるが、保護者のC母親は気になっていないこともあり得る。これは、活動場所や状況によっても違ってくる環境要因と評価する側の個人要因が影響を及ぼしている。

さらに、長年子どもとかかわっている先生方から幼稚園時代の子どもの「海のものと山のものともつかず、いろいろな可能性を秘めているので、見立てが難しい」との言葉をよく聞く。保護者との共通理解も難しい問題を孕んでいる。「気になる」という言葉は、発達が著しい乳幼児期において、個人要因か環境要因かの確に判断しにくい子どもの曖昧な問題性を何とか表現している言葉ともいえる。

しかし一方で、学生の多くは採用されたその日から幼稚園や保育所で実際に子どもたちとかかわっていくという現実もある。子どもの特別なニーズに対して的確な支援をしていくためには、支援者側が相対的で曖昧な見方をしていてよいのかという問題もでてくる。学生に対しては大学での養成段階から「気になる」子どもへ対する指導の在り方や心構えについて、ある程度は理解し支援できる力をつけておく必要があるだろう。

今後の課題としては、今回の調査で見出した項目の内容を精査し、より基本的な項目に整理することである。そして、これまでに発表されてきている、「気になる」子どものスクリーニングテストに個人要因と環境要因の視点を取り入れ、幼稚園や保育所現場で活用できる簡便なチェックリストを作成する事が考えられる。

軽度発達障害に対する支援の在り方としては、茨城大学附属養護学校（2004）が支援のCD-ROMを作成している。福井県特別支援教育研究会（2006）では、DSM-IVの診断基準に基づいたチェックリストを作成している。支援法については、主にTEACCHプログラムや応用行動分析（ABA）、ソーシャルスキルトレーニング（SST）、認知行動療法などの一部の技法を参考にしながら取り組まれてきている。

また、支援のためのチェックリストや方法については全国の教育委員会や教育機関で「手引」などが作成され、小・中学校での取り組みが始まっている。本郷ら（2003、2006）の調査研究では、目的の一つとして「保育コンサルテーションの在り方を探る」としている。子どもの成長を願うとき、子どもにかかわる関係者が同じ視点で共通理解する必要性がある。教育相談を進めるときに、より明確なチェック表が必要であることは言うまでもない。

しかし、親は「気になる」子どもイコール軽度発達障害のある子どもとしてレッテルを張られることは大変嫌がる。そこで、宮田（2003）、中田（2005）は「育児支援に立ち返る」ことを指摘している。全ての子どもにとって必要な育児支援のためのチェックとして考えるのである。子育て機能が低下しているといわれる現代において、家族への支援活動を基本に置いて、全ての子どもと親の子育てにかかわる視点に立

ち返って、「気になる」子どもの子育てニーズにこたえていく必要がある。

## 引用・参考文献

- American Psychiatric Association (1994). Diagnostic and Statistical Manual of Mental disorders, 4th ed : DSM-IV.  
 高橋三郎・大野裕・染屋俊幸（訳）（1995）. DSM-IV精神疾患の分類と診断の手引 医学書院.  
 福井県特別支援教育研究会（編著）松木健一（監修）（2006）. すぐに役立つ特別支援教育コーディネーター入門 東京書籍.  
 平澤紀子・藤原義博・山根正夫（2005）. 保育所・園における「気になる・困っている行動」を示す子どもに関する調査研究—障害群からみた該当児の実態と保育者の対応および受けている支援から—, 発達障害研究, 26（1）256-267.  
 本郷一夫・澤江幸則・鈴木智子・小泉嘉子・飯島典子（2003）. 保育所における「気になる」子どもの行動特徴と保育者の対応に関する調査研究, 発達障害研究, 25（1）, 50-61.  
 本郷一夫（2006）. 保育の場における「気になる」子どもの理解と対応—特別支援教育への接続— プレーン出版.  
 House, E.A., (2002). DSM-IV Diagnosis in the Schools - updated 2002. The Guilford Press.  
 上地安昭（監訳）・宮野泰子（訳）（2003）. 学校で役立つDSM-IV : DSM-IV-TR対応新版 誠信書房.  
 五十嵐元子・芦沢清音・浜谷直人（1999）保育における「気になる子」タイプとその発達援助（1）. 日本発達心理学会第10回発表論文集, 380.  
 石井哲夫（2006）. かかわりの中で理解を深めることの大切さ 児童心理12月号臨時増刊, 60, 18, 金子書房, 2-9.  
 石塚謙二（2006）. 特別支援教育の喫緊の課題と展望—中央教育審議会の中間報告と改革動向—, 発達障害研究, 28（1）, 18-22.  
 岩手県教育委員会（2004）. LD・ADHD・高機能自閉症児の理解と支援の手引, 特別支援教育指導資料, 28.  
 岩手県教育委員会（2005）. 特別支援教育のための相談・支援の手引, 特別支援教育指導資料, 29.  
 金田利子・今泉依子・青木瞳（2000）. 集団保育において「気になる」といわれている子の実態と対応, 日本特殊教育学会第38回大会発表論文集, 387.  
 松村茂治・蘭千壽・岡田守弘・大野精一・池田由紀江・菅野敦・長崎勤（編）（2004）. 講座 学校心理士の実践：幼稚園・小学校編 北大路書房.  
 松村多美恵・廣瀬由美子（監修）新井英靖・茨城大学教育学部附属養護学校（編）（2004）. 「気になる子ども」の配慮と支援—LD（学習障害）ADHD・高機能自閉症児の正しい理解と対応方法 中央法規.

- 宮田広善 (2003). 子育てを支える療育—く医療モデル>からく生活モデル>への転換を— ぶどう社.
- 文部科学省 (2004). 小・中学校におけるLD (学習障害) ADHD (注意欠陥／多動性障害) 高機能自閉症の児童生徒への教育支援体制の整備のためのガイドライン (試案) 東洋館出版社.
- 室橋春光 (2006). 特別支援教育と発達障害者支援法—現状と課題. こころの科学セクション発達障害 日本評論社. 201-215.
- 長澤正樹・関戸英紀・松岡勝彦 (2005). こうすればできる: 問題行動対応マニュアル 川島書店.
- 中田洋二郎 (2005). 早期発見・早期療育の課題 軽度発達障害の子への援助の実例 児童心理臨時増刊59, 9. 36-40.
- 生地 新 (2005) 発達障害概念の拡大の危険性について 精神医療, 37, 37-44.
- 生地 新 (2007). 「軽度発達障害」という「診断」を設定することで発見されるもの、隠蔽されるもの 現代のエスプリ: スペクトラムとしての軽度発達障害 I 至文堂. 89-95
- 21世紀の特殊教育の在り方に関する調査研究協力者会議 (2001). 21世紀の特殊教育の在り方について—一人一人のニーズに応じた特別な支援の在り方について— (最終報告).
- 西澤直子・上田征三・高橋実 (2003). 保育所における「気になる子ども」の実態と支援の課題 (1) —市内保育所の実態調査から—, 日本特殊教育学会第41回大会発表論文集, 745.
- 小野次郎・榊原洋一 (共編) (2002). 教育現場における障害理解マニュアル 朱鷺書房.
- 小澤道子・柗澤尚代 (1999). 気になる子どものサポート 多様な視点を持つ保健指導 医学書院.
- Seefeldt, C., & Barbour, N. (1990). Individual Differences: The Effects of Diversity. Early Childhood Education An Introduction 2nd ed. Merrill Publishing Company. 70 - 95.
- 嶋野重行 (2007). 保育の中のADHD 七木田敦 (編) 実践事例に基づく障害児保育—ちょっと気になる子へのかかわり— 保育出版社. 67-68.
- 障害者施策研究会 (2005). よくわかる障害者施策 2005年版 中央法規出版.
- 高橋実・上田征三・西澤直子 (2003). 保育所における「気になる子ども」の実態と支援の課題 (2) —保育士が「気になる」とする子どもの状況分析—. 日本特殊教育学会第41回大会発表論文集, 746.
- 田中康雄 (2004). わかってほしい! 気になる子 自閉症・ADHDなどと向き合う保育 学習研究社.
- 特別支援教育の在り方に関する調査研究協力者会議 (2003). 今後の特別支援教育の在り方について (最終報告) 文部科学省.
- 内山登紀夫 (2006). 気になる子どもに対する支援のあり方. 月刊福祉, 4. 28-31.
- 上野一彦 (2005). 発達障害児への理解と支援の立場から. 発達障害研究, 27 (2). 95-97.
- 山崎晃資 (2006). 発達障害の基本理解. 月刊福祉, 4. 24-27.

## A Study of Difficult Children: research on the difficult child as observed in preschools by students of a junior college

SHIGEYUKI SHIMANO

### Abstract

The purpose of this research is to distinguish the characteristic features of so-called “difficult children” observed by junior college students while participating in their teaching practicum at preschools. This study also acts as a good foundation for training the junior college students to better study and understand some of the developmental disabilities of the preschool-aged child. In order to do this, a questionnaire survey was made after the practice teaching was completed. From a total of 105 answers, 71%, admitted to the existence of “difficult children.” In addition, the content of 265 items was analyzed, and then difficult behavior was categorized into 7 areas hereby called “action”, “group activity”, “interpersonal relationships”, “language”, “bodily impairment”, “daily activities”, and “character.” Results showed a similarity in 65% of all the items to the behavioral features of slightly disabled children. To teach the college students more about the behavioral features of difficult children, it is necessary to make a checklist of the problems observed by the students. Based on this research, the students can acquire skills and methods, which can help them to understand as well as support “difficult children.”